

平成19年度需要見込関連表

種 類	換算規格	A	B	C	D=B+C	E	F=D-E	G
		H18年度 供給見込	H18年度末 在庫見込	H19年度製造 輸入見込量	H19年度 供給可能量	H19年度需要 見込量	H19年度末 在庫見込量	在庫量(ヶ月分)
アルブミン	25% 50ml 1瓶	3,255,500	961,700	3,236,800	4,198,500	3,259,200	939,300	3.5
乾燥人フィブリノゲン	1g 1瓶	2,500	1,100	2,300	3,400	2,400	1,000	5.0
組織接着剤	cm <sup>2</sup>	9,308,100	2,683,100	10,803,700	13,486,800	10,723,300	2,763,500	3.1
血液凝固第Ⅷ因子(遺伝子組換え型 含む)	1000単位 1瓶	328,900	142,000	351,900	493,900	343,000	150,900	5.3
乾燥濃縮人血液凝固第Ⅸ因子(複合 体含)	1000単位 1瓶	36,400	12,800	34,300	47,100	37,100	10,000	3.2
インヒビター製剤	延人数	10,000	6,300	14,500	20,800	13,700	7,100	6.2
ヒト血漿由来乾燥血液凝固第ⅩⅢ因 子	1瓶	137,300	43,200	130,200	173,400	117,200	56,200	5.8
トロンピン(人由来)	10000単位 1瓶	29,800	10,600	53,800	64,400	34,800	29,600	10.2
人免疫グロブリン	2.5g 1瓶	1,315,400	404,400	1,509,500	1,913,900	1,515,900	398,000	3.2
抗HBs人免疫グロブリン	1000単位 1瓶	23,700	9,400	30,200	39,600	23,300	16,300	8.4
乾燥抗D(Rho)人免疫グロブリン	1000倍 1瓶	9,000	4,600	9,400	14,000	8,600	5,400	7.5
抗破傷風人免疫グロブリン	250単位 1瓶	75,200	57,600	73,200	130,800	84,600	46,200	6.6
乾燥濃縮人アンチトロンピンⅢ	500単位 1瓶	387,800	119,200	413,200	532,400	438,100	94,300	2.6
乾燥濃縮人活性化プロテインC	2500単位 1瓶	300	300	0	300	200	100	6.0
人ハプトグロビン	2000単位 1瓶	43,900	11,800	43,900	55,700	44,000	11,700	3.2
乾燥濃縮人C1-インアクチベーター	1瓶	630	200	700	900	460	440	11.5

## 平成17年度の血漿分画製剤の需給状況

製剤名	換算規格・単位	製造・輸入量		③供給量	自給率(供給ベース)	
		①計	②うち国産原料		16年度	17年度
		上段:実績(達成率) 下段:需給計画	上段:実績(達成率) 下段:需給計画	上段:実績(達成率) 下段:需給計画		
アルブミン	25%50ml(瓶)	3,136,000 (102.9%)	1,374,900 (87.0%)	3,357,300 (99.3%)	50.2%	53.7%
		3,048,800	1,580,300	3,380,300		
乾燥人フィブリノゲン	1g	1,900 (95.0%)	1,900 (95.0%)	2,500 (125.0%)	100.0%	100.0%
		2,000	2,000	2,000		
組織接着剤	接着面積(cm2)	9,419,900 (81.7%)	3,665,900 (96.0%)	9,554,600 (98.5%)	40.7%	45.3%
		11,529,100	3,819,000	9,695,700		
血液凝固第Ⅳ因子(遺伝子組換え型含む)	1000単位(瓶)	322,400 (108.2%)	105,700 (102.3%)	291,000 (93.0%)	39.9%	39.3%
		298,100	103,300	312,900		
乾燥濃縮人血液凝固第Ⅲ因子(複合体含む)	1000単位(瓶)	38,400 (102.4%)	38,400 (102.4%)	38,900 (113.7%)	100.0%	100.0%
		37,500	37,500	34,200		
インヒビター製剤	延べ人数(人)	15,700 (112.9%)	0	13,000 (91.5%)	0.0%	0.0%
		13,900	0	14,200		
ヒト血漿由来乾燥血液凝固第Ⅷ因子	(瓶)	161,100 (95.9%)	0	132,300 (89.9%)	0.0%	0.0%
		168,000	0	147,100		
トロンピン(人由来)	10000単位(瓶)	38,900 (109.6%)	38,900 (109.6%)	40,700 (119.7%)	100.0%	100.0%
		35,500	35,500	34,000		
人免疫グロブリン	2.5g瓶(瓶)	1,347,200 (105.2%)	1,192,000 (107.0%)	1,398,900 (99.5%)	87.5%	88.6%
		1,280,800	1,114,300	1,405,900		
抗HBs人免疫グロブリン	1000単位(瓶)	17,000 (73.0%)	600 (100.0%)	19,700 (96.6%)	2.7%	2.6%
		23,300	600	20,400		
乾燥抗D(Rho)人免疫グロブリン	1000倍	1,900 (26.8%)	0	8,700 (96.7%)	0.0%	0.0%
		7,100	0	9,000		
抗破傷風人免疫グロブリン	250単位(瓶)	72,100 (81.4%)	0	78,300 (88.5%)	0.0%	0.0%
		88,600	0	88,500		
乾燥濃縮人アンチトロンピンⅢ	500単位(瓶)	402,300 (102.9%)	388,900 (103.2%)	398,600 (109.8%)	88.0%	94.9%
		391,000	377,000	363,100		
乾燥濃縮人活性化プロテインC	2500単位(瓶)	370 (37.0%)	370 (37.0%)	90 (23.7%)	100.0%	100.0%
		1,000	1,000	380		
人ハプトグロビン	2000単位(瓶)	45,500 (130.7%)	35,500 (136.5%)	44,000 (102.1%)	0.0%	46.7%
		34,800	26,000	43,100		
乾燥濃縮人C1-インアクチベーター	500倍(瓶)	860 (286.7%)	0	540 (120.0%)	0.0%	0.0%
		300	0	450		

注1. 数値は、製品の規格別に報告された数量を集計し、代表的な規格・単位に換算したうえ、四捨五入により100又は10の整数倍で表示した。

注2. 液状タイプの組織接着剤については、接着・閉鎖部位の面積当たりの使用量を勘案して換算し、インヒビター製剤については、体重50kgの人への投与量を標準として人数で算出した。

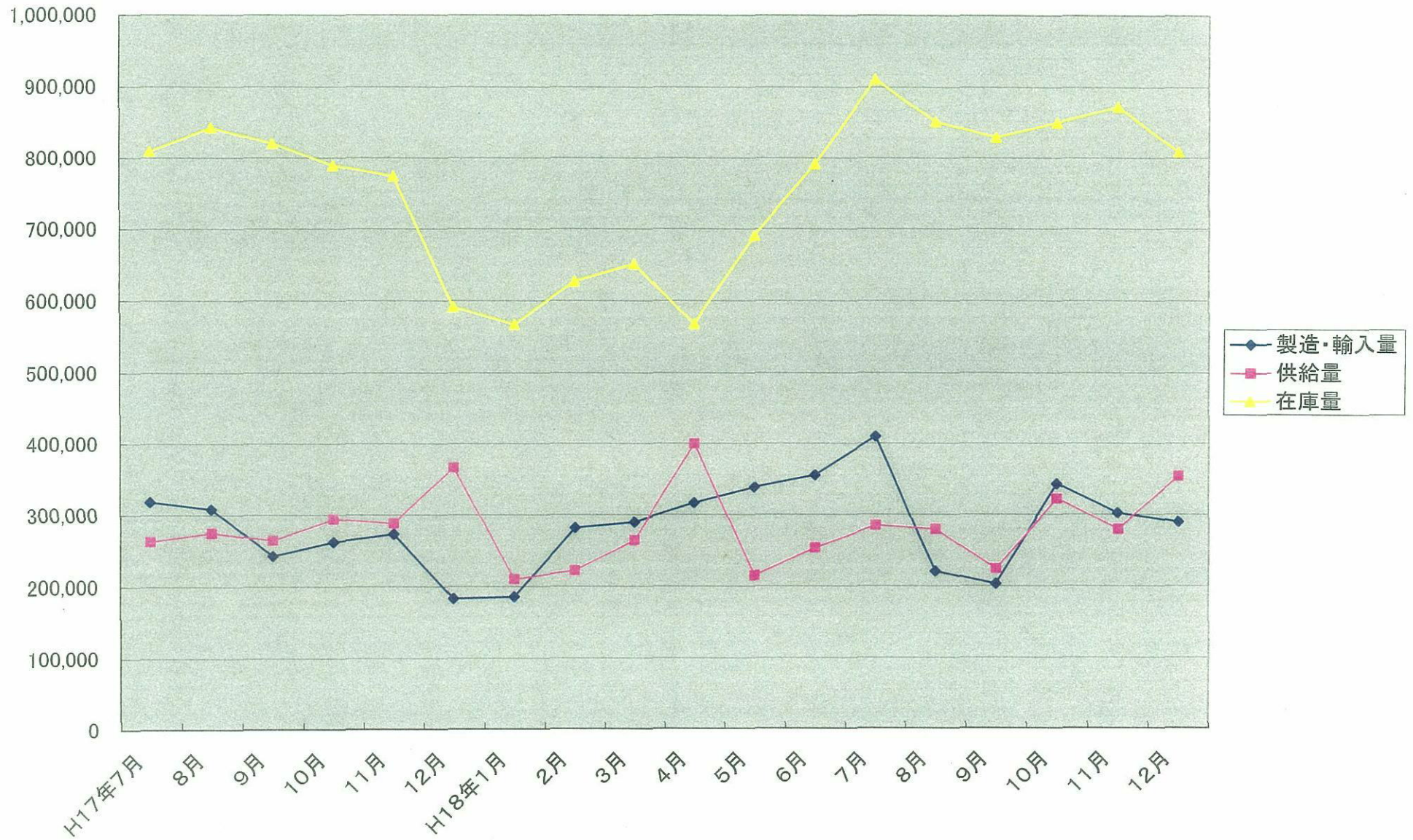
平成18年度の血漿分画製剤の需給状況(4月～12月実績)

製剤名	換算規格・単位	製造・輸入量		③供給量	自給率(供給ヘ-ス)	
		①計	②うち国産原料		17年度	18年度(上半期)
		上段:実績(達成率) 下段:需給計画	上段:実績(達成率) 下段:需給計画	上段:実績(達成率) 下段:需給計画		
アルブミン	25%50ml(瓶)	2,778,500 (82.9%)	1,615,600 (86.6%)	2,614,600 (80.3%)	53.7%	55.4%
		3,353,100	1,866,500	3,255,500		
乾燥人フィブリノゲン	1g	2,100 (67.7%)	2,100 (67.7%)	2,200 (88.0%)	100.0%	100.0%
		3,100	3,100	2,500		
組織接着剤	接着面積(cm2)	7,715,000 (80.5%)	4,206,400 (99.0%)	8,129,000 (87.3%)	45.3%	48.9%
		9,581,500	4,250,000	9,308,100		
血液凝固第四因子(遺伝子組換え型含む)	1000単位(瓶)	195,500 (57.6%)	82,900 (63.9%)	242,000 (73.6%)	39.3%	35.4%
		339,700	129,700	328,900		
乾燥濃縮人血液凝固第Ⅸ因子(複合体含む)	1000単位(瓶)	26,900 (71.7%)	26,900 (71.7%)	30,000 (82.4%)	100.0%	100.0%
		37,500	37,500	36,400		
インヒビター製剤	延べ人数(人)	10,200 (82.9%)	0	11,100 (111.0%)	0.0%	0.0%
		12,300	0	10,000		
ヒト血漿由来乾燥血液凝固第ⅩⅢ因子	(瓶)	93,200 (58.1%)	0	104,300 (76.0%)	0.0%	0.0%
		160,400	0	137,300		
トロンピン(人由来)	10000単位(瓶)	10,300 (34.8%)	10,300 (34.8%)	34,700 (116.4%)	100.0%	100.0%
		29,600	29,600	29,800		
人免疫グロブリン	2.5g瓶(瓶)	1,088,100 (73.0%)	999,000 (73.5%)	1,140,500 (86.7%)	88.6%	91.1%
		1,490,800	1,359,900	1,315,400		
抗HBs人免疫グロブリン	1000単位(瓶)	18,100 (83.0%)	600 (100.0%)	15,700 (66.2%)	2.6%	2.1%
		21,800	600	23,700		
乾燥抗D(Rho)人免疫グロブリン	1000倍	8,700 (124.3%)	0	7,200 (80.0%)	0.0%	0.0%
		7,000	0	9,000		
抗破傷風人免疫グロブリン	250単位(瓶)	57,800 (50.8%)	0	61,700 (82.0%)	0.0%	0.0%
		113,800	0	75,200		
乾燥濃縮人アンチトロンピンⅢ	500単位(瓶)	329,600 (96.8%)	317,900 (96.7%)	324,800 (83.8%)	94.9%	96.4%
		340,600	328,600	387,800		
乾燥濃縮人活性化プロテインC	2500単位(瓶)	640 (213.3%)	640 (213.3%)	200 (66.7%)	100.0%	100.0%
		300	300	300		
人ハプトグロビン	2000単位(瓶)	21,700 (52.7%)	21,700 (52.7%)	33,100 (75.4%)	46.7%	100.0%
		41,200	41,200	43,900		
乾燥濃縮人C1-インアクチベーター	500倍(瓶)	340	0	430 (68.3%)	0.0%	0.0%
		0	0	630		

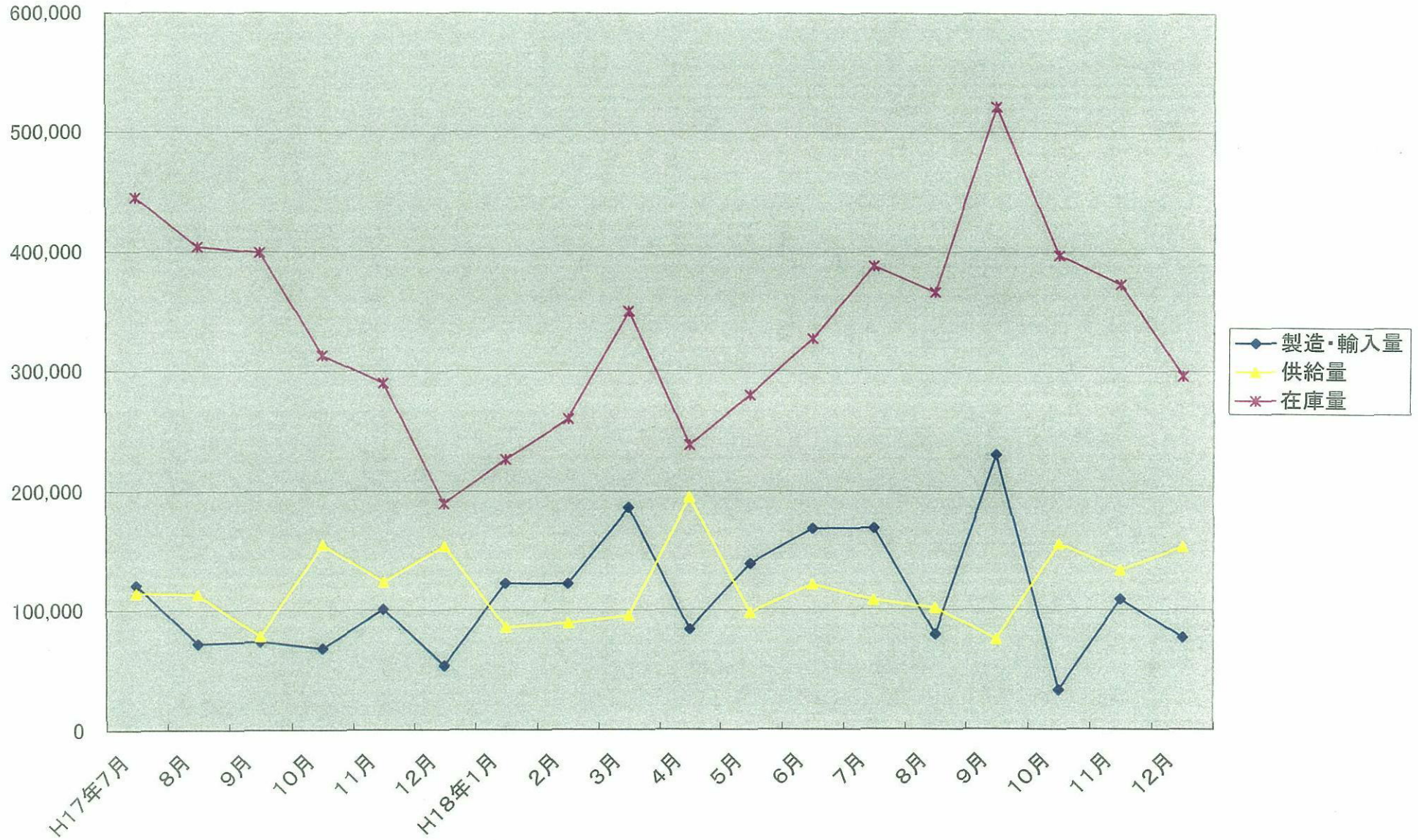
注1. 数値は、製品の規格別に報告された数量を集計し、代表的な規格・単位に換算したうえ、四捨五入により100又は10の整数倍で表示した。

注2. 液状タイプの組織接着剤については、接着・閉鎖部位の面積当たりの使用量を勘案して換算し、インヒビター製剤については、体重50kgの人への投与量を標準として人数で算出した。

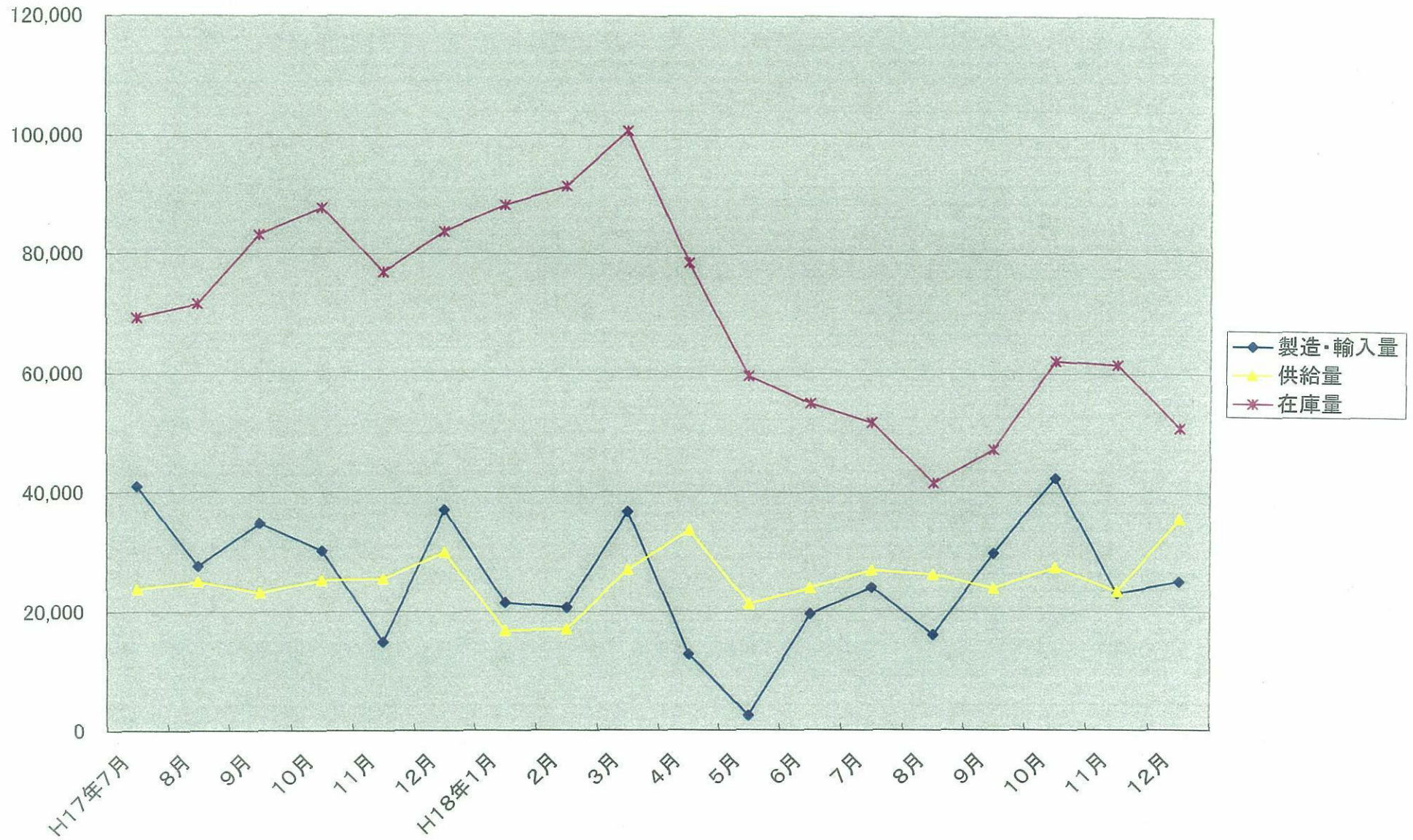
アルブミン製剤の製造量等の推移



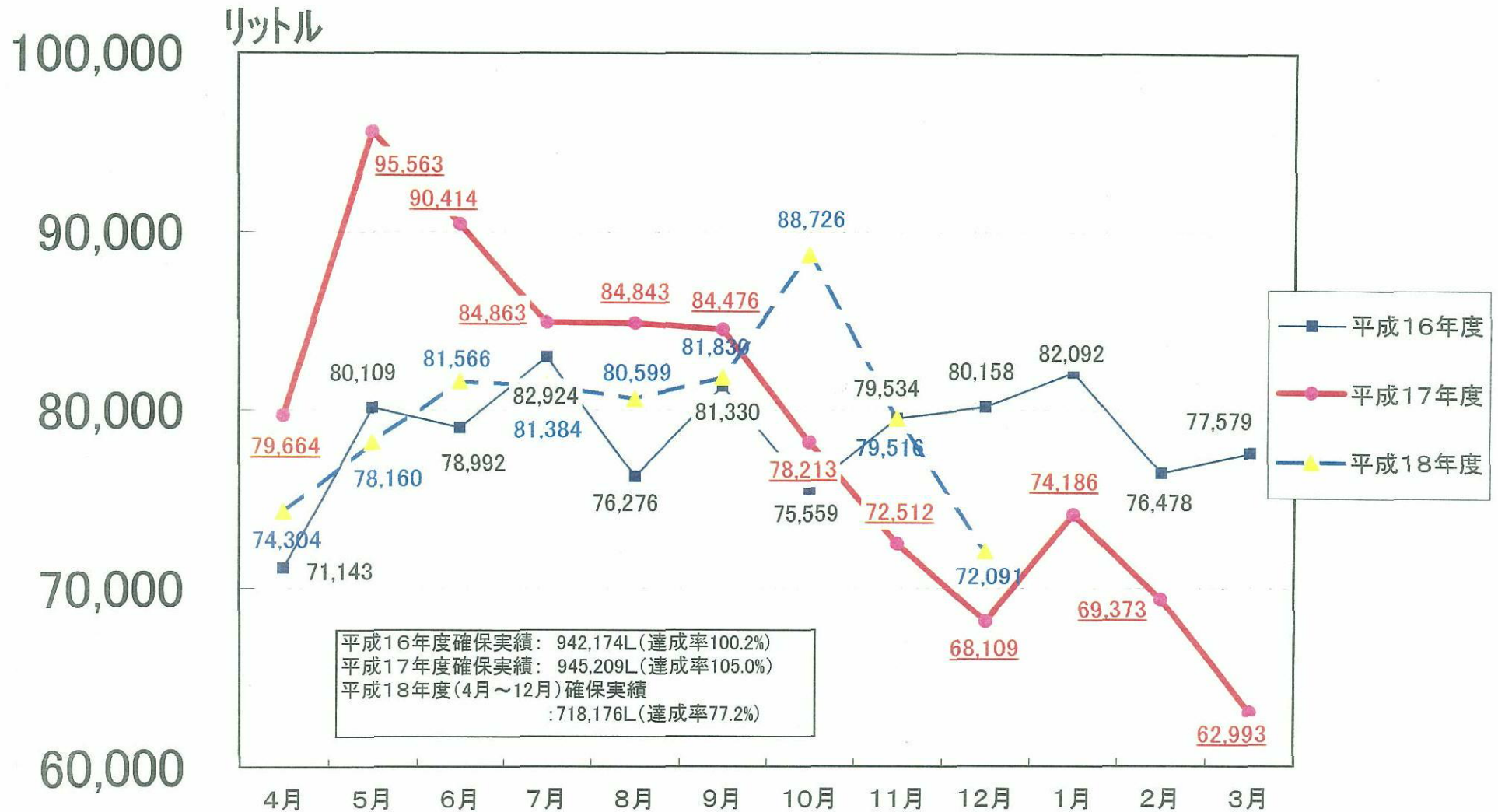
免疫グロブリン製剤の製造量等の推移



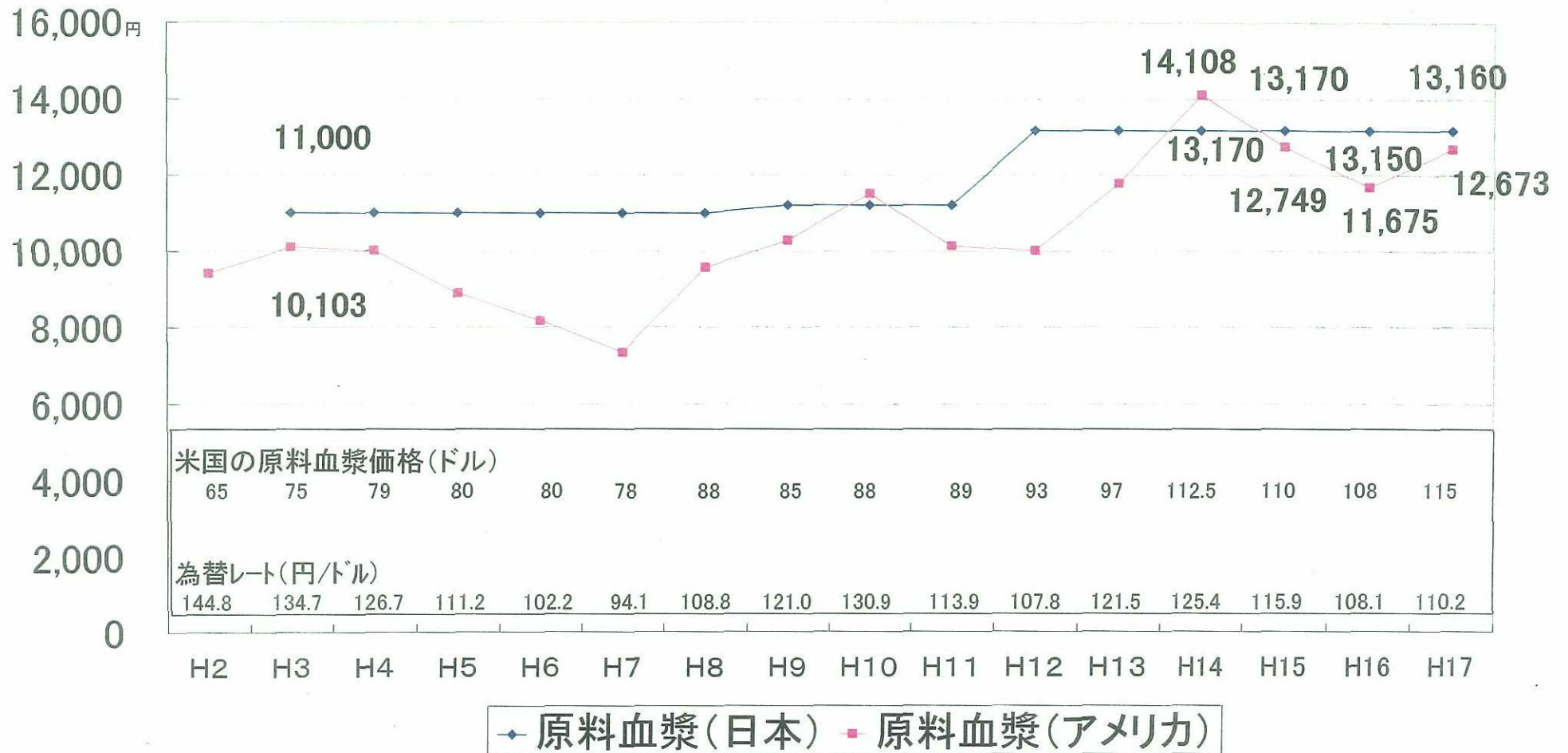
血液凝固第Ⅷ因子製剤の製造量等の推移



# 原料血漿確保実績(平成16年4月～平成18年12月)



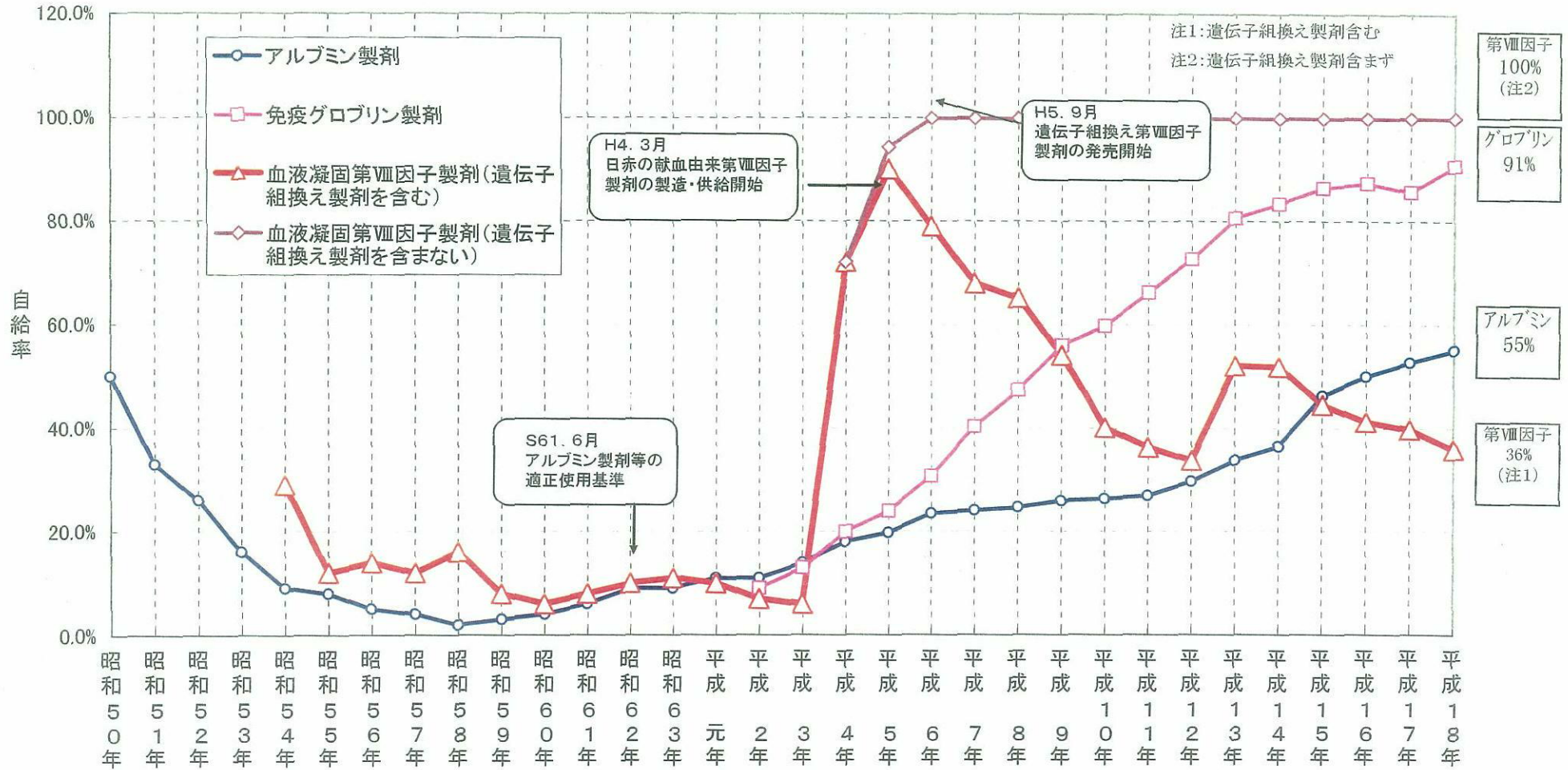
## 原料血漿価格(日米)の推移



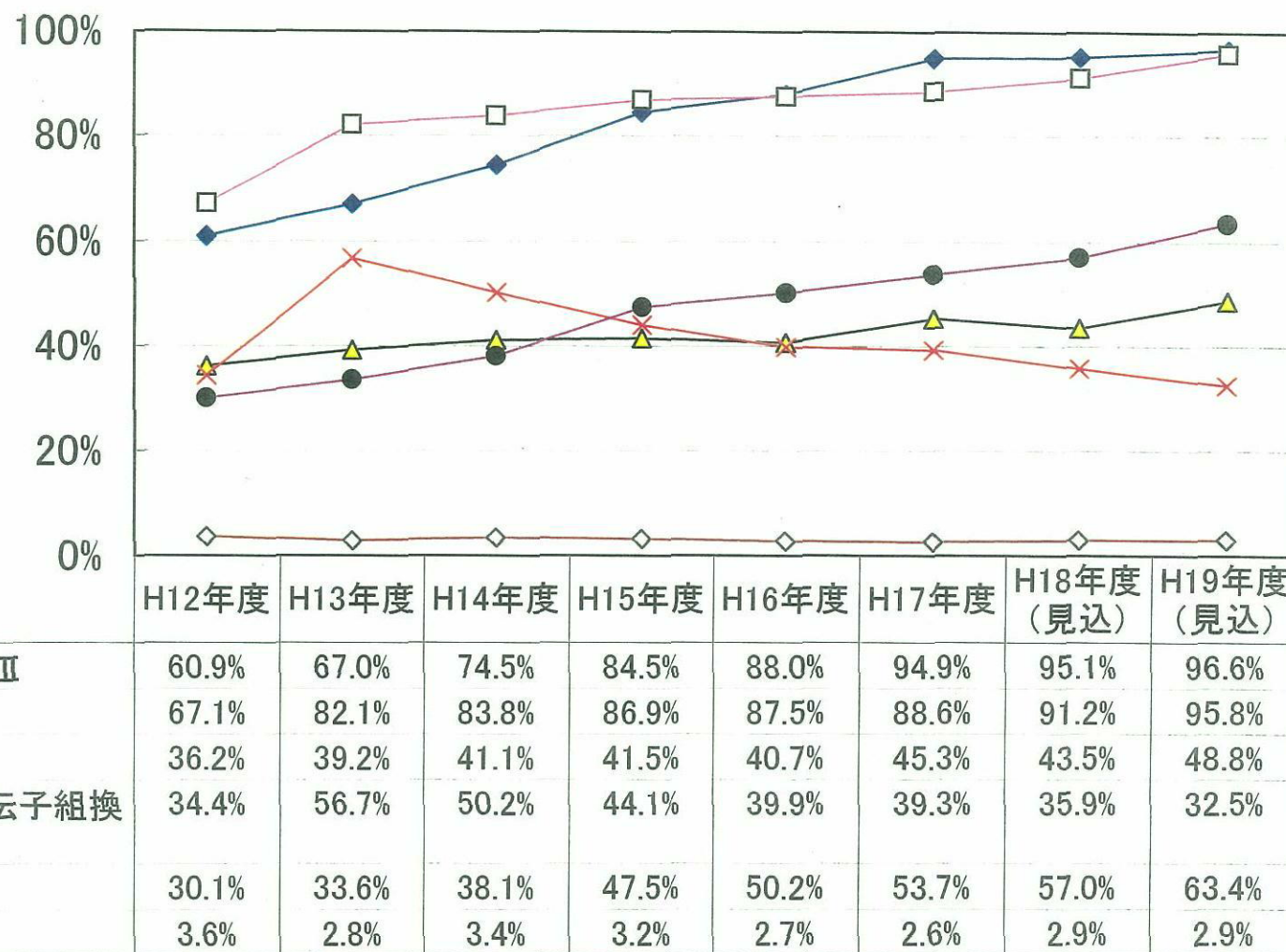
米国における原料血漿価格はThe Plasma Fractions Market in the United States 2005より  
 (The Marketing Research Bureau Inc)  
 為替レートは IMF World Economic Outlook の1997年10月版及び2006年10月版の指標を使用。



## 血漿分画製剤の自給率の推移 (年次:供給量ベース)



## 主な血漿分画製剤の自給率の推移 (供給量ベース)



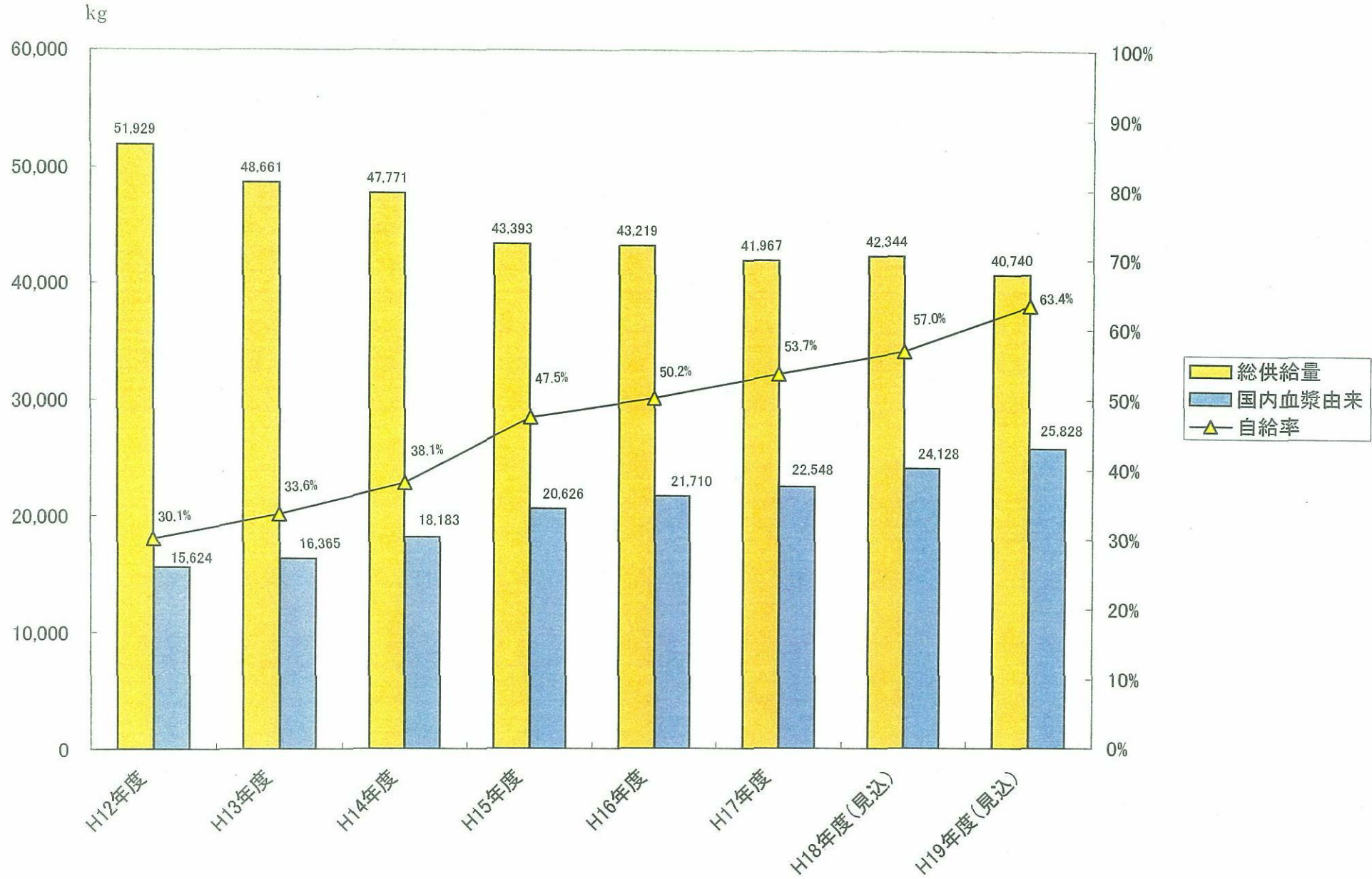
自給率100%のもの

乾燥人フィブリノゲン、血液凝固第Ⅷ因子(血液由来に限る)、乾燥濃縮人血液凝固第Ⅸ因子(複合体含む)、トロンピン、乾燥濃縮人活性化プロテインC、人ハプトグロビン(見込)

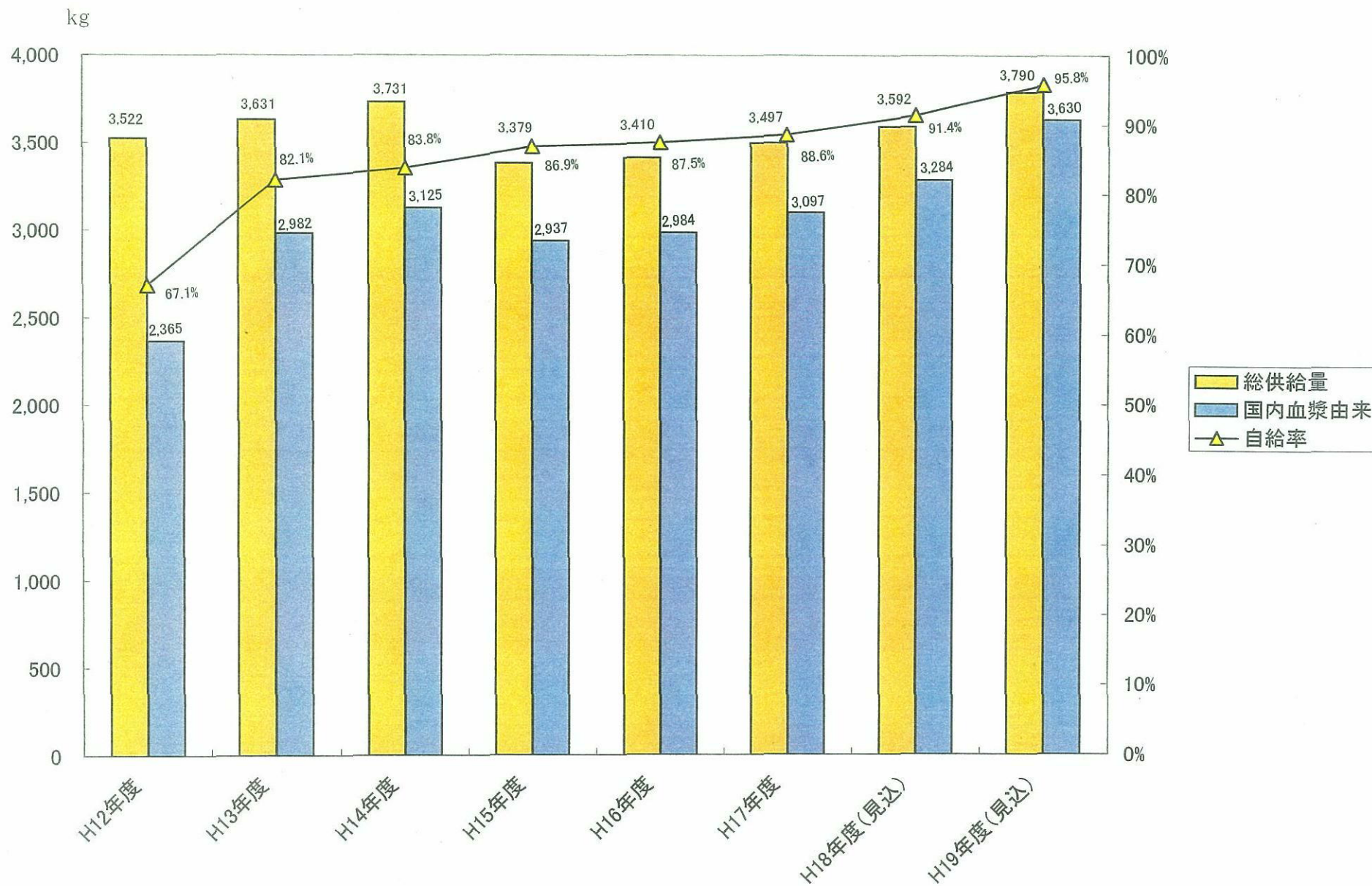
自給率0%のもの

インヒター製剤、乾燥濃縮血液凝固第ⅩⅢ因子、乾燥抗D(Rho)人免疫グロブリン、抗破傷風人免疫グロブリン、乾燥濃縮人CI-インアクチベーター

# アルブミン製剤の供給量と自給率

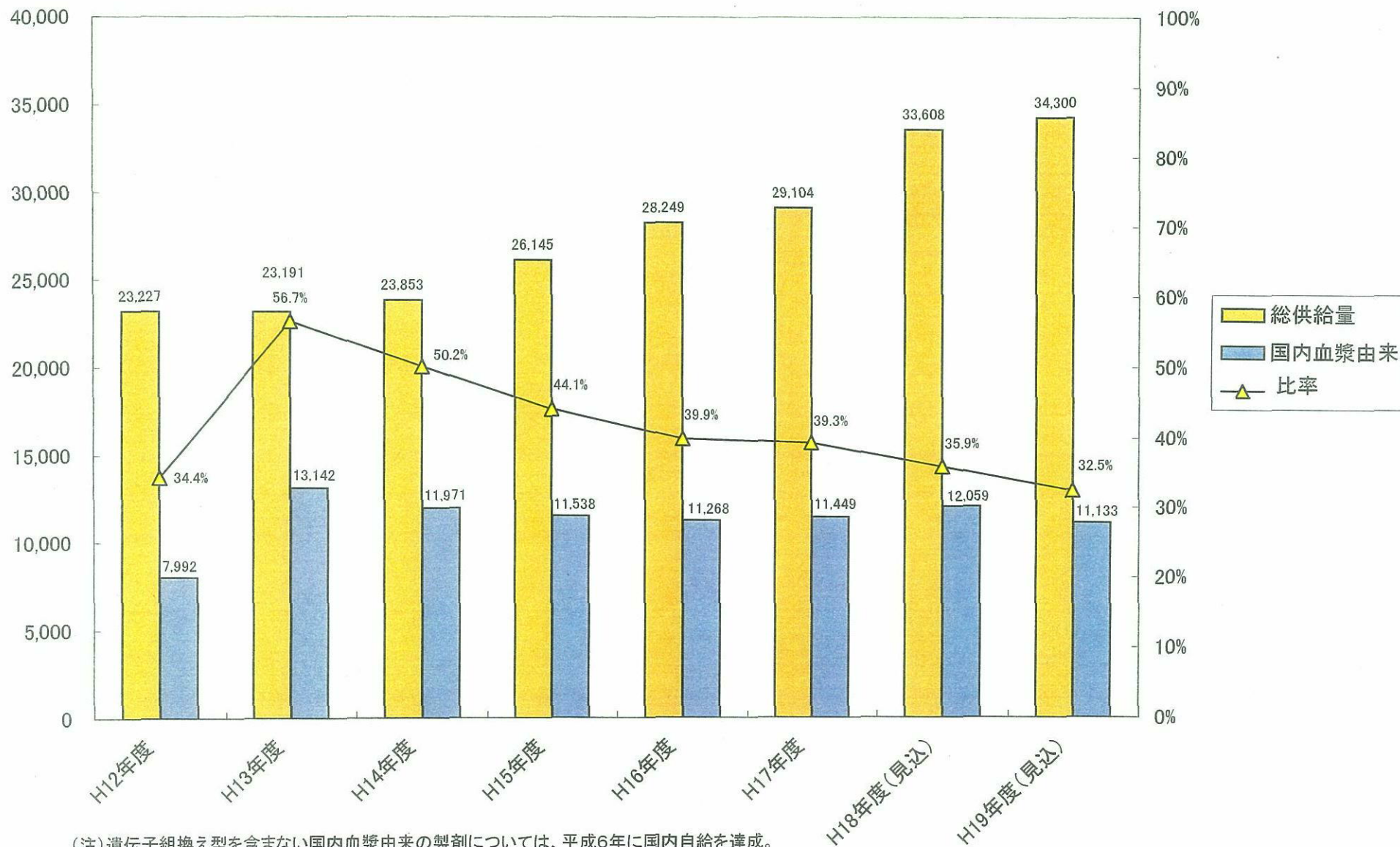


### 免疫グロブリン製剤の供給量と自給率



## 血液凝固第Ⅷ因子製剤の供給量(遺伝子組換え型含む) と国内血漿由来製剤の割合

万単位



(注) 遺伝子組換え型を含まない国内血漿由来の製剤については、平成6年に国内自給を達成。